

## 医療観察法病棟で患者の退院までを経験した

### 看護師が感じた“やりがい”に繋がる要素

長見和彦<sup>1)</sup> 樋野宏典<sup>1)</sup> 高橋和子<sup>1)</sup> 上田歩<sup>1)</sup> 小乾みどり<sup>1)</sup> 高橋晃<sup>1)</sup>

平居順子<sup>1)</sup> 中川康江<sup>2)</sup>

1) 国立病院機構鳥取医療センター看護部 10 病棟

2) 鳥取看護大学看護学部看護学科

## Factors leading to “satisfaction” which was attained by nurses who experienced care for patients in a forensic observation ward until discharge

Kazuhiko Nagami<sup>1)</sup>, Hironori Hino<sup>1)</sup>, Kazuko Takahashi<sup>1)</sup>, Ayumi Ueda<sup>1)</sup>,

Midori Koinui<sup>1)</sup>, Akira Takahashi<sup>1)</sup>, Junko Hirai<sup>1)</sup>, Yasue Nakagawa<sup>2)</sup>

1) The 10th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

2) Department of Nursing, School of Nursing, Tottori College of Nursing

### 要旨

医療観察法病棟の看護師は、患者の特殊性や困難性から、看護にかかる負担やストレスが大きいことが報告されている。その一方、看護師は、医療観察法病棟に入院する患者への社会復帰に向けた支援にやりがいを感じるという調査結果も得られている。そこで、患者の入院から退院までを経験した看護師へのインタビューを通し、医療観察法病棟の“やりがい”を明らかにすることを目的として本研究を行った。その結果、医療観察法病棟の看護師が患者の入院から退院までを経験したことで得られた“やりがい”に繋がる項目として、逐語録の中から3件のカテゴリー、40件のサブカテゴリーを抽出した。その抽出過程を振り返り、【多角的視点を獲得する】、【地域生活を見据えた関わり】、【新たなスキルの獲得】が“やりがい”に繋がるという結果が得られた。鳥取臨床科学 11(2), 76-80, 2019

### Abstract

It has been reported that nurses who work in a forensic observation ward have a higher burden and stress due to specialty and difficulty in their nursing work. Nevertheless, some reports revealed that nurses experienced satisfaction in support for patients who return to home after rehabilitation in a forensic observation ward. Here we conducted this study to elucidate ‘satisfaction’ in a forensic observation ward through conducting interviews with nurses who provided care for patients in the period between admission and discharge. Based on the results of interviews, we extracted 3 categories and 40 subcategories in verbatim records as the factors leading to

‘satisfaction.’ Through the extraction process, it has been concluded that “obtaining multilateral points of view,” “intervening with considering life in the community,” and “obtaining new skills” led to “satisfaction.” Tottori J. Clin. Res. 11(2), 76-80, 2019

**Key words:** 医療観察法病棟, 社会復帰支援, 看護師の“やりがい”, 専門的多職種チーム; forensic observation ward, support for social rehabilitation, ‘satisfaction’ in nurses, specialist interdisciplinary team

## はじめに

心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者の医療及び観察に関する法律（以下、医療観察法）の目的は、「心神喪失等の状態で重大な他害行為を行なった者に対し、継続的かつ適切な医療並びにその確保のために必要な観察及び指導を行なうことによって、その病状を改善及びこれに伴う同様の行為の再発の防止を図り、もってその社会復帰を促進すること」である。医療観察法病棟では、この目的を達成するための医療を提供している。患者の中には、信頼関係の構築が難しいことや、疾患理解が進まないなど、多くの問題を抱え、治療効果が思う様に得られない状態が続く場合もある。先行研究においても、医療観察法病棟の看護師は、患者の特殊性や困難性から、看護にかかる負担やストレスが大きいことが報告されている。その一方、坂口<sup>1)</sup>の研究において、看護師は医療観察法病棟に入院する患者の社会復帰に向けた支援にやりがいを感じるという調査結果も得られている。今回の研究は、医療観察法病棟で働く看護師にインタビューを行い、“やりがい”に繋がる要素を明らかにすることを目的とする。

## 用語の定義

“やりがい”とは、物事をするに当たっての心の張り合い、そのことをするだけの価値、それに伴う気持ちの張り、ことに当たる際の充実感や手応えなどを意味する。

MDT とは、入院処遇者 1 名に対し、精神科医師・看護師・心理療法士・作業療法士・精神保健福祉士の 5 職種で構成される専門的多職種チーム（MDT: multidisciplinary team）を指す。

## I. 研究目的

退院に関わった経験をした看護師の語りから医療観察法病棟で働く看護師の“やりがい”に繋がる要素を明らかにする。

## II. 研究方法

### 1. 研究対象

A 病院医療観察法病棟に従事し、入院から退院まで受け持った経験のある看護師 6 名中、事前に同意文書を用いた説明を行った上で、インタビューの同意を得られた看護師 3 名を対象とした。

### 2. 研究期間

20XX 年 7 月～20XY 年 3 月 31 日。

### 3. データの収集方法

患者の入院から退院までの受け持ちを経験した看護師の語りから、医療観察法病棟で働く看護師の“やりがい”に繋がる要素を明らかにするために、インタビューガイドに基づいた半構造化面接を行った。1 対象者につき 30～40 分で、勤務時間内に個室で面接した。面接時にインタビューの内容を研究者が IC レコーダーに録音する許可を得て、実施した。インタビューの内容は、過去の疾患教育、外出泊、退院調整、生活技能の獲得についての関わりの中で、印象に残っている具体的なエピソードを聴き出し、どんな関わりを行ったか、対象者への想いや関わり後の変化、退院を経験して“やりがい”を感じられたのかを聴き出した。

### 4. 分析方法

インタビューの内容を研究メンバーが IC レコーダーから逐語録におこし、逐語録の中から、“やりがい”について語られた部分を抜粋しコー